

【分科会5】IPS（個別就労支援とサポートモデル）

～働くことのストレス・働けないでいることのストレス～

香田真希子(目白大学/コンボACT-IPSセンター)

池田真砂子(社会生活サポートセンターこみっと)

大島みどり(障害者就職サポートセンタービルド)

柴田康臣(障害者就職サポートセンタービルド)

中島吾木香(地域活動・相談支援センターかさい)

直美(地域活動・相談支援センターかさい)

働いているといろいろあるものです。また、働けないでいるときもいろいろあるものです。

働くことは、その人にとって「リカバリーの重要な要素」になることはもちろんですが、時には疲れてしまい就労支援者も働いている人も働きたいと思っている人も、”癒されたいな～”と、感じることもあります。

当日は、「分科会の趣旨とIPSの概要の概説」の後、実際にIPSの就労支援の専門家（ES）から「就労支援のお仕事とストレスマネジメント」と題して、ESの業務内容の特徴と心がけておいた方がよいこと・感じることの多いストレスやその対処法についての実践報告がありました。

次に、「働けないでいることのストレス」と題して、実際にIPSのサービスを利用している人の体験談を、お聞きしました。

ブレイクをはさんで、「IPS発祥の地、バーモントの取り組みから学ぶこと」として、実際に視察した内容も含めて報告がありました。

最後に「元気になるためのワーク」をWRAP（元気回復行動プラン）を活用して、働くことをめぐるストレスにどう対処していけばよいか、「いい感じで働いているときの私とその工夫」について様々な立場を超えて、アイデアを出しあいました。

★IPSとは？

IPS（Individual Placement and Support）のゴールはリカバリーです。1990年代前半にアメリカで開発された個別就労支援モデルであり、多くの研究で、その効果が実証されている代表的な科学的根拠に基づく実践プログラム（EBP）の1つです。

《香田真希子（目白大学/ NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ ACT-IPS センター）》